

普及活動情勢報告（令和6年8月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

いの町沖田地区集落営農組織設立を目指して ～四万十市農事組合法人先進地視察～



7月2日、いの町沖田地区集落営農発起人会を対象に四万十市の農事組合法人2組織の先進地視察研修を実施しました。発起人7名と関係機関9名が参加し、集落営農組織の取組を研修しました。

農業改良普及課は、視察前に四万十市2法人の紹介と沖田地区の今後の取組について説明をしました。

参加者からは、視察先で参考になった事として「ビジョンの話し合いが大事であることがわかった」「運転資金の確保が必要」「5年先の営農計画が必要」等意見が出されました。

先進地視察を実施したことで集落営農組織のイメージを高めることができました。

農業改良普及課は、今後もしの町と連携して集落営農組織が設立できるよう支援します。

高品質な米作りを目指して ～いの町上東地区勉強会～



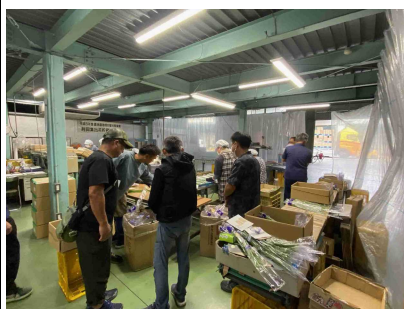
7月11日、いの町上東地区で勉強会を開催し、生産者13人の参加がありました。

旧上八川小学校に集まった参加者に対し、農業改良普及課は、穂肥の時期や病虫害防除などのポイントについて情報提供を行いました。

生産者からは、「カメムシの発生状況はどうか」「分けつが少ないが、増やす方法はないか」などの質問がなされ、活発な勉強会となりました。

農業改良普及課は、今後も上東地区の高品質な米作りの支援を行っていきます。

1株にどれくらいかん水してるかご存じですか？ ～土佐市ニラ部会目慣らし会～



7月26日、JA土佐市ニラ部会を対象に目慣らし会及びデータ駆動型農業に用いる機器の紹介を行い、6名の生産者が参加しました。

目慣らし会では、JAから梅雨後の葉先の焼けや黄化による等級の低下に注意が必要との指導がありました。

農業改良普及課は、水量センサーについて紹介しました。実際に活用している生産者から「1株毎のかん水量がしっかりグラフで確認でき、自分の圃場の癖と合わせて必要なかん水量を把握できた」との意見が出たことで、他生産者も水量センサーを用いた管理に関心が高まりました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携し、データ駆動型農業に対する指導を続けます。

土佐市ピーマンの担い手確保・育成に向けて
～新規就農支援にかかる意見交換会を開催～



8月2日、土佐市役所で、長期産地ビジョン“ピーマンのまち土佐市構想”における新規就農者への支援を充実させるため、土佐市ピーマン部会の指導農業士4名と関係機関17名で意見交換会を開催しました。

農業改良普及課は土佐市における新規就農者の動向、J Aからは産地ビジョン、市からは新規就農に係る補助事業について説明した後、意見交換を行いました。

指導農業士からは、研修後に就農するハウス確保等の出口対策について、多く意見が出されました。

農業改良普及課では、関係機関とともに、指導農業士の意見を反映させた取組を行えるよう進めていきます。